

1～4号機は燃料の安定冷却を継続しています。発電所の最新状況やさまざまな取組みをお知らせします。

2018年6月1日 発行

■ 本号の内容

- 新入社員が知識・技能を習得しています
- サッカーの聖地 再開へ！
- 発電所構内の空間線量
- 燃料の保管と冷却状況
- 地域とともに
- 皆さまからの声
- 皆さまの声をお聞かせください



福島第一・福島第二原子力発電所に配属となった新入社員42名。
困難な課題にも前向きにチャレンジしていきます。

紙面をリニューアルしました！

皆さまからのご意見等をふまえて、本号から紙面をリニューアルしました。
発電所の最新状況や取組み、地域の情報などを、これまで以上に「読みやすく、わかりやすく」
皆さまにお届けできるよう努めてまいります（隔月発行となります）。ぜひ、ご覧ください。

新入社員が知識・技能を習得しています

今年4月に福島第一・福島第二原子力発電所へ配属となった新入社員42名※¹は現在、当発電所内の「原子力人財育成センター※²」で研修を受けています。

新入社員たちは約半年間の研修を通して、電気や原子力の知識や技能を習得し、原子力安全を担うための基本行動を身につけ、11月からそれぞれの配属先で業務にあたります。

※¹ 福島第二に12名、福島第一に30名が配属されました。

※² 当社原子力部門の「人材」を育成するため、2016年12月に設立した組織。



発電所設備の設計や操作方法を学んでいます



発電所設備を自分の目で確認します

「毎日の努力で変わる」 集中して研修に臨んでいます

震災のとき、私は小学5年生でした。先生の指示で机の下に隠れたのを今でも覚えています。その後、二本松市へ避難しましたが、「ふたば未来学園高等学校」へ通うことを決め、浜通りに戻ってきました。

高校では一期生として、地元の復興をテーマとした活動を経験しました。その活動を通じ、「地元企業の一員として、多くの人と関わり、地域を元気にしたい」と思うようになり、東京電力への入社を決意しました。

今は「毎日の努力で変わる」という先輩の言葉を信じ、集中して研修に臨んでいます。地元の方々とのふれあいを大切にしながら、一つひとつの仕事に前向きに取り組んでいきたいと思っています。

福島第二原子力発電所 新入社員

木村 知宙

(浪江町出身)

休日は、ショッピングに出かけたりしています。

楡葉町内の寮にいますので、「笑ふるタウンならは」の商業施設オープンが楽しみです。



原子力人財育成センター 福島第二人財育成グループ

折橋 友紀

(双葉町出身)

趣味はサッカーです。休日は子供のサッカーの応援をしたり、家族でアウトドアを楽しんだりしています。



私は入社後、主に発電所設備を点検・修理する業務を担当してきました。昨年からは人財を育てる業務に携わり、主に新入社員の研修を担当しています。

原子力安全を確保するために身につけるべき知識や技能、ふるまいを新入社員に伝えるには、まず私自身が幅広く深い知識を持つ必要があると感じ、新入社員と共に学ぶ日々です。

新入社員には、物怖じせず色々なことにチャレンジしてもらいたいです。そして困難な課題を共に乗り越えていけるような仲間成長してほしいと願っています。

物怖じせず、色々なことに
チャレンジしてほしい



『サッカーの聖地』再開へ！



2011年3月の福島第一原子力発電所事故後、当社が復旧・廃炉作業の拠点として使用させていただいた、サッカーのナショナルトレーニングセンター「Jヴィレッジ」。当社は、ピッチなどの施設を震災前の状態に戻すための工事を進めてまいりました。

作業員の駐車場として使用していたピッチ



天然芝に覆われた現在のピッチ



Jヴィレッジでは、現在、再始動に向けて準備が進められており、コンベンションホール機能を有する新ホテル棟が建設されています。また、2019年4月（予定）の全面営業再開に向けて、国内初の全天候型サッカー練習場も建設されています。

2018年7月28日(土)、Jヴィレッジは、新たな魅力が加わり「一部営業再開」となります。



2018年5月16日



浜通り各事業所の社員で、新設される芝生広場に芝生の苗植えを行いました。

夏までには芝が広がり憩いの場所として開放されます。

Jヴィレッジでは、一部営業再開するピッチ、新ホテル棟を含むホテル、レストランの予約を受付中！フィットネスジム（ボール・アリーナ）も再開します。



National Training Center
J-VILLAGE

★総合案内・宿泊予約★
<https://j-village.jp/>
TEL: 0240-23-7311

発電所構内の空間線量

(単位はマイクロシーベルト毎時)

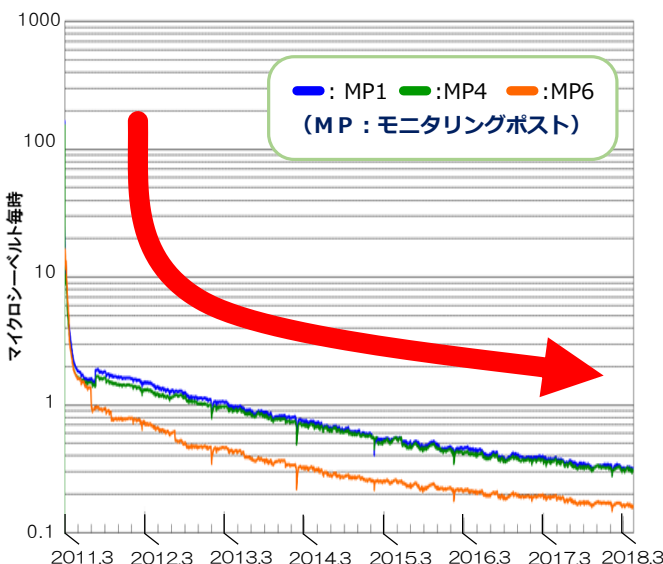
発電所構内のモニタリングポスト計測値 (MP1~7)

2018年5月31日 時点

0.09 [MP7] ~ 0.32 [MP3]

値は震災後、現在に至るまで低下傾向

震災から現在まで (2011年3月16日~2018年4月30日)



参考データ (単位はマイクロシーベルト毎時)

発電所周辺町村の空間線量

富岡町 (福道圏外区域含む)	0.07 ~ 2.16	楢葉町	0.04 ~ 0.25
広野町	0.06 ~ 0.18	川内村	0.05 ~ 0.33

原子力規制委員会 放射線モニタリング情報より (2018年5月31日 時点)

世界の主要都市の空間線量

ロサンゼルス (アメリカ)	0.10	ソウル (韓国)	0.12
上海 (中国)	0.59	ロッテルダム (オランダ)	0.33

出典：福島県放射能測定マップより

燃料の保管と冷却状況

- 燃料はすべて、1~4号機の使用済燃料プールで保管しています。プール水は約30℃で安定的に冷却し、常に監視しています。

2,534体	2,482体	2,544体	2,516体
1号機	2号機	3号機	4号機



「川内の郷かえるマラソン」が開催されました

4月28日、「川内の郷かえるマラソン」の第3回大会が、青空の下、川内村で開催されました。3年連続のゲスト参加となる川内優輝選手を迎えた同大会には、県内外から過去最多の約1,800人が参加しました。レースでは、各人が記録に挑戦したり、カエルの衣装で楽しく走ったりするなど、それぞれのペースで春の川内路を駆け抜けました。沿道の温かい声援をエネルギーに、大会に参加した当社社員も爽やかな汗を流しました。



駐車場の整理など、大会のお手伝いをさせていただきました。



当所所長の石井も10kmコースを完走しました！



皆さまからの声

～ 皆さまからお寄せいただいた声をご紹介します ～

- 町民の帰還の妨げにならないよう、発電所の安全性を向上させてほしい。
- 福島第二原子力発電所の今後の扱いについて、決断してほしい。
- 社員がガレキ撤去用重機の運転訓練をしていることは、緊急時の安全性が高まる良い取り組みだと思う。高い意識を持って訓練を継続してほしい。
- 東京電力にも地域の一員として、これからも地域イベントへの参加や協力をお願いしたい。
- 行政区の集まりの場で福島第一、福島第二の現状について説明してほしい。



皆さまの声をお聞かせください

このたび新たにメールアドレスを設けました。今後の広報紙制作のため、ご感想やご要望など、皆さまの声をぜひお聞かせください。

fuku2kouhou@tepcoco.jp (受信専用)

※ご記入いただいた個人情報は、紙面づくりの参考とする以外には使用いたしません。



編集後記

日が長くなり、日差しを強く感じる季節となりました。今回から、お知らせの紙面をリニューアルしましたが、いかがでしたか？

これからも発電所の情報を分かりやすく、そして地域の「今」を皆さまにお届けできる広報紙を目指していきます。【文】



福島復興への責任を果たすために、福島第二原子力発電所は燃料の安定冷却を継続してまいります。



福島第二原子力発電所の
ホームページもご覧ください。

<http://www.tepcoco.jp/nu/f2-np/index-j.html>

編集発行責任者：

東京電力ホールディングス株式会社
福島第二原子力発電所 広報部 企画広報グループマネージャー
〒979-0695 福島県双葉郡楢葉町大字波倉字小浜作12
TEL 0240-25-1353 (受付時間 (平日) 午前9時～午後5時)